

---

# IS fusion

雪羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

I S f u s i o n

### 【Nコード】

N 6 6 7 9 Y

### 【作者名】

雪羅

### 【あらすじ】

タイトル通り、本編とオリジナルの融合。オリ主 久遠祐希が加わったISの世界・・・彼女もまたある意味の天才だった。IS学園に入学し波乱万丈の物語が始まる！

なおこの作品えらく頻繁に他作品を引用します。その都度助言しますがご理解を。

## 設定・注意（前書き）

テスト前だが気にしない。

というよりは気にもしない。

テストは金曜日

## 設定・注意

こんばんわ。今から投稿していくのはIS＜インフィニット・ストラトス＞を元にしたオリ主を加えた小説です。小説自体初めて書くので多目に見てくださいれば有り難いです。なお、文中のキャラや機体、世界設定について自分が愛読しているお気に入り小説を参考・・もとい引用させていただきます。その際は前書き、後書きで備考として入れていきます。

そんなこんなで始めたいと思いますのでよろしくお願いします。

あ、あと自分は高1ですのでテスト等で不安定となります．．．  
それでも読んでくだされば光栄です。

目標は、

「自分のお気に入り小説の融合」です。

それでは次回からよろしくお願いします。

## 一話 興味の対象（前書き）

勉強するやる気がない

テストはできないひとがすればいいといつも思う

## 一話 興味の対象

私は今歩いている。

何処へって？

友人の家にです。私の最初の友達、篠ノ之箒と遊ぶ約束をして今向かっている。

私は毎回おもうのだけど、箒の姉さん、束さんはいつも無表情・冷酷：

今となつてはあまり気にしなくなつたけど、それがただ単に興味の対象じゃないからだそうだ。

それはさておき到着！呼び鈴ならして少し待つ。そして、

「祐希早かったな、あがつていいよっ！」

箒ちゃん登場！！

「うん！ありがとっ！お邪魔します。」

私は久遠祐希<sup>ひさのちゆう</sup>8歳。小2。

まあ、自己紹介はおいといて、靴を脱いで上がる。

2階に向かっていると色々とプリントを持った束さん登場。

多分今日も同じなんだろうなあと思いつつ、

「こんにちはっ」

と挨拶すれば

「……………こんにちは。」

やっぱりそつかあ。変わらないや。

束さんの腕から一枚抜けて落ちた。

祐希はそれを拾い渡そうとしたが…

その内容を見て全てが分かってしまった。

そして、

「この図は何かのグラフ…？ネットワークのような…。でも所どころによって途切れている…。自己進化の過程？」

周りからみればただのグラフ…その証拠に簞は頭の上に？を浮かべている。

だが、そのつぶやきに束は見逃さなかった。

「…！？…君、分かるの？」

「えっ、…まあ、なんとなく？なんかひらめいたから、つい」

束さんの気迫に押された！

祐希に軽いダメージ？

「じゃあじゃあ、これはどうかなっ？」

束さんの気迫上昇中？

「これは、言語認識プログラムが神経接続？その先は…脳？さっきのネットワークのようなものの通信かな？」

「凄いよ君、君も天才なあ？ 君の名前はっ！」

束さんは以前の無関心な対応が一変した。  
当然その対応ができる訳なく、

「ゆ、祐希。久遠祐希です…。」

少し噛んでしまった。

「祐希ちゃんかぁ…うん！ゆーちゃんに決定！いつでも来ていいよっ。」

愛称が決まった！興味の対象となった瞬間だった。

「姉さん、…祐希いつも遊びに来てるけど。」

「えっ、そーなの。まあ、いつか」

「「はぁーっ…」」

落胆する筈と祐希だった。

まだこの時2人はこのさきの未来が予想できなかった。



## 一話 興味の対象（後書き）

今回は和利夫さんのを引用しました。

オリ主と東さんを結ぶのはこれしかないと思いました。

ここから数話は和利夫さんのを引用していききたいと思います。

## 二話 助手依頼（前書き）

テスト前なのに執筆する．．．  
勉強嫌いじゃないけど、飽きた。

## 二話 助手依頼

東さんとの出会い？から数年。私は普通に過ごしていた。もちろん、第ちゃんの家にも遊びに行ったりもしていた。その度東さんも出迎えてくれた。

そしてその時が来てしまった。

宇宙空間での活動を想定されたマルチフォームスーツ・・・

『インフイニット・ストラトス』・・・通称『IS』だ。

最初は注目されなかったけど、（東さんは学生だったため注目された）その後起きてしまった

『白騎士事件』で一躍注目されるようになった・・・兵器として。

しかもISは「女性にしか扱えない」から各国で女尊男卑が進んでしまった。

あれから数ヶ月、私はいつもどおり暮らしていたけれど・・・

「祐希いー。電話よー。」

一階から母さんの呼ぶ声がした。私は読みかけの本を置いて部屋から出た。

「誰から？」

「それがねえ、分からないのよ。ただ、『祐希ちゃんいますか』ってしか。」

誰だろう？と思った。私に電話をかけてくるのは篝ちゃんか一夏くんしかかけてこないから。

そう思いながら母さんから受話器を受け取った。

「もしもし？」

「．．．もしもし、ひねもす？」

．．．ああ、あの人しかいないと思った。電話をかけたらいつものセリフ、これは．．．

「東さん？」

「はあゝい。みんなのアイドルっ、篠ノ之東さんだよーっ！！」

このタイミングでっ！？まあいつか。取り敢えず．．．

「何か要件があるんですか？」

「うんうん、ありあり、超アリなんだよーっ！！取り敢えず家の前にいるから出てきて出てきてっ！！」

「はあーい。じゃ、今すぐ．．．」

「それとつ。今日は泊り込みで来てくれるかなあ？いいかなあ？」

ダメだ、これは「必ず泊まってね！」って言っているようにしか聞こえない。

「はあ、分かりました。少し待っていてください。準備しますから。」

「うんうん、束さんは律儀な子は好きだよ？」

なぜ疑問形？と思いつつ受話器を置いた。

「母さん、友達の家泊まりに行ってもいい？」

泊まるなら申し出をする。これ小学生の鉄則。

「いいわよ。迷惑かけないようにね。」

すごいあつさりだ。こんなところがいいのかもしれない。

「分かった。行ってきます。」

私は準備をして、家をでた。すると目の前に束さん。

「きたきた、じゃあ行こっか！」

言われるまま私はついて行った。

数十分後、ある建物の前に到着。ここは・・・？

「ここはねー、私がISを開発した場所、『倉持技研』だよっ！」

ここがISを開発した場所かぁ．．．って私が来る場所じゃないよね。

「私がゆーちゃんを呼んだのは、私の助手になって欲しいからなのだっ！」

うん、よく聞こえなかった。

「．．．え？」

「だから、私の助手になってほしいのだっ！」

うわー、いきなりだよ、いきなり。

「なんで私なの？」

「頭がいいからだよ？」

疑問形返しは止めましょう。

「だってゆーちゃん、全国模試いもグフツ！」

「言わなくてもいいでしょっ！？こんなところでっ！？」

「（．．．！コクコク）ぷはっ。ゆーちゃんひどいつ。ちーちゃん顔負けのアイアンクロー．．．！どこで習ったの？」

「千冬さん本人。」

こんなこともあるのかと私は習っておいていたっ！これから先も使おう、うん。

「取り敢えず入ろう、そうしよう！」

「はい．．．」

何か上手く乗せられたような気がするけど行こう。聞くことも沢山あるし、なぜ私なのかも聞こう。そう考えながら足を進めた。

## 二話 助手依頼（後書き）

今回は特に引用しなかったと思う。

次回はシートさんの作品で出てくるあの人が登場するかもしれない。  
倉持技研<sup>II</sup>でわかると思います。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6679y/>

---

IS fusion

2011年11月23日12時48分発行